

女子学生と中高年婦人の下着の着用実態に関する研究  
 名古屋女子大短大 古川智恵子 ○中田明美

目的 前報では、現代ファッションの一つである下着の着用実態を女子学生を視点にとらえて調査し、機能性について比較検討した。本報では、女子学生及び中高年婦人の下着の着用実態及びその意識を調査し、両者間を比較検討し、今後の衣生活のあり方に対する指針を得る事を目的とした。

方法 調査期間 昭和60年3月～61年1月 調査方法 本学短大家政科の学生400名に対し、本人とその母親、祖母に対し、配布留置法によってアンケート調査を行なった。調査項目は、下着の使用実態と購売行動について行なった。

結果 下着の着用実態は、高年層は腰巻、ロングズロース、中年層はスタンダード、ハーフショーツ、女子学生はセミビキニ、ビキニ型が最も多く着用され、年齢が低くなるに従って脇丈の短いものが好まれている。次に、高年層が初めて着用した下着は腰巻、中年層はズロース型であり、また着用パターンは高年層は腰巻→ズロース型、中年層はズロース型→スタンダード型が多く、上着が和装から洋装への移行と同時に下着も変化した事が世代差に顕著にみられた。次に、下着着用形態の理由は、学生は形態・色・柄が好みに合う、着脱の簡便さ等を重視し、母親は、はき易さ、活動性、習慣等をあげ、また購入時の選択順位では、前者は色・柄・デザインを重視し、後者は、はき易さ、価格、縫製等をあげている。品質表示の認識度については、前者は半数以上が認識していても、購入時には無関心派が多く、後者は購入時も重視している。以上の事から学生はファッション性、心理的満足度を求め、母親は実用・堅牢性に重きをおいている傾向がみられた。